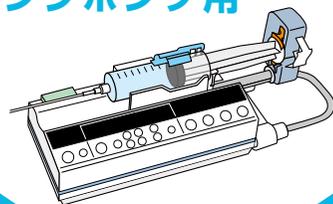


クーデック  
シリンジポンプ用



キュービトル<sup>®</sup>による治療を受けられる  
患者さん・ご家族の方へ

# キュービトル<sup>®</sup> 自己注射マニュアル

監修：岡田 賢 先生

広島大学病院 小児血液腫瘍科長  
広島大学大学院医系科学研究科(医) 教授



自己注射の方法は  
動画でもご紹介しています



# はじめに

キュービトルは、免疫グロブリン\*を補充するための「皮下注用人免疫

グロブリン製剤」です。\* 病原体や異物にくっついて、感染症を防ぐ役割をもつ物質の一種

この冊子では、自己注射の手順や注意事項を紹介しています。

ご自宅で自己注射を実施される際に、ぜひお読みください。

キュービトルの自己注射を行う際は、次のことに留意しましょう

- 主治医の許可が必要です。
- 医療従事者の指導を受ける必要があります。
- 注射の量や速度、注射部位、スケジュールは必ず主治医の指示にしたがってください。  
(間違えて注射した場合は、主治医に連絡してください。)

## 目次

- キュービトルの管理 ..... p.3
- 注射部位について ..... p.3
- 自己注射の手順
  - 準備 ..... p.6
  - 注射 ..... p.12
  - 片付け・記録 ..... p.22
- Webサイトのご紹介 ..... p.24
- よくある質問 Q & A ..... p.25

# キュービトルの管理

キュービトルは、凍らせないように  
25℃以下で保存してください  
ご使用前には、最終有効年月日(箱に記載)を  
必ず確認しましょう

お薬は、医療機関から提供  
される遮光しゃこうの保冷バッグで  
持ち帰ってください。

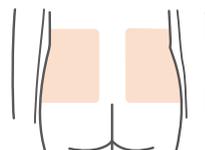
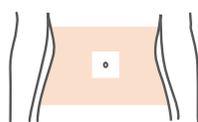


冷蔵庫で保存する場合は、箱に入れたまま、  
凍らせないように保存してください。



# 注射部位について

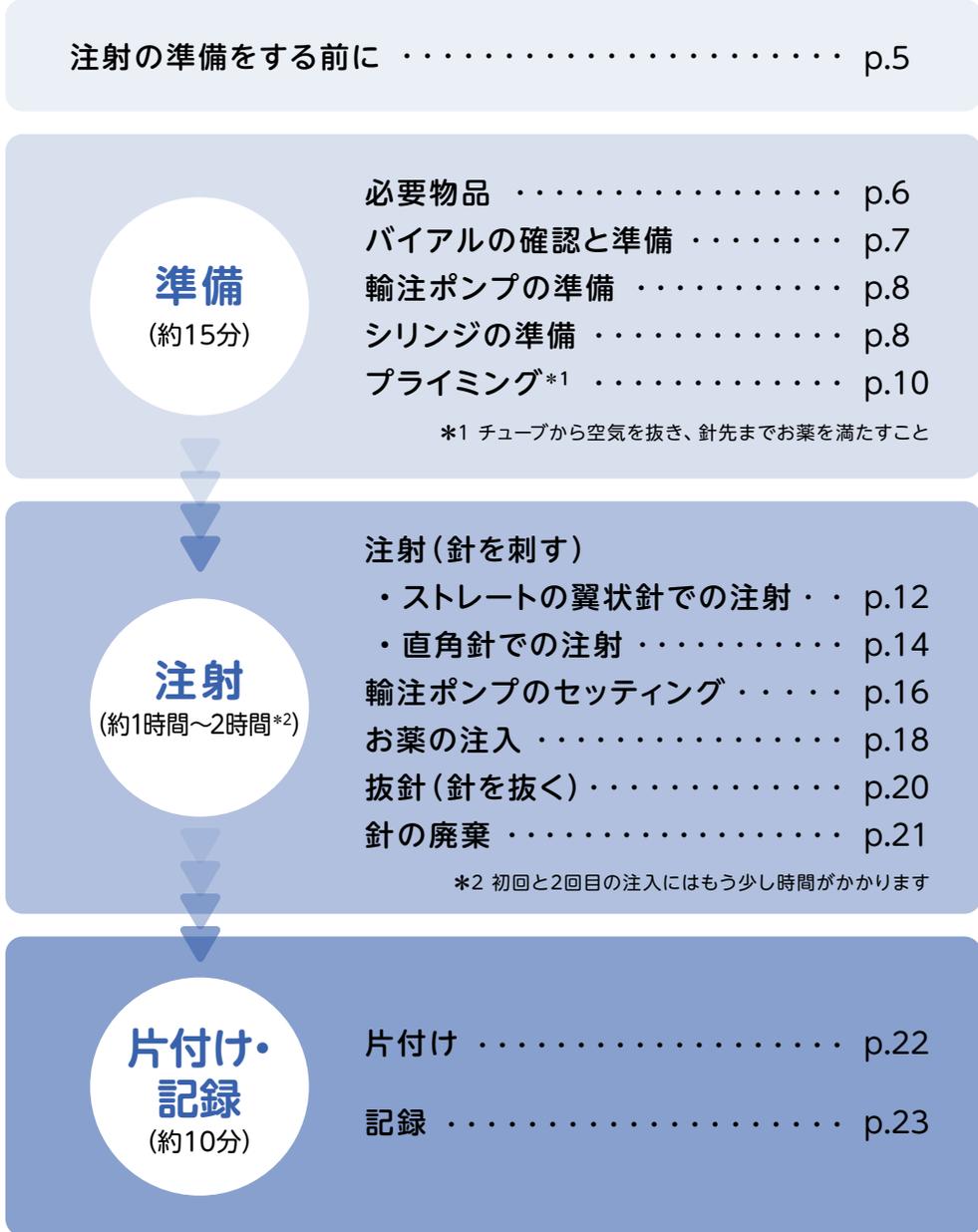
- お腹なか、太ももうで、二の腕こし、腰の外側のいずれかの  
部位に注射します。ご自身で注射する場  
合には、お腹と太ももが選べ、ご家族が注射する場  
合には、お腹と太ももに加えて二の腕と腰の  
外側も選べます。
- お腹に注射する場合、おへそから5cm以上離  
します。
- 骨ばった部位、目に見える血管けっかん、傷・傷跡きずあと、  
炎症えんしょう(赤く、ヒリヒリする)のある部位などは  
避けましょう。
- 前回と同じ部位に注射する場合、針を刺す位  
置は少しずつ変えてください。



- 注射部位ちゅうしゅうぶいと注入量・注入速度については、主治医の指示を受けてください。
- 複数の部位に分けての注射なども、主治医の指示にしたがってください。

# 自己注射の手順

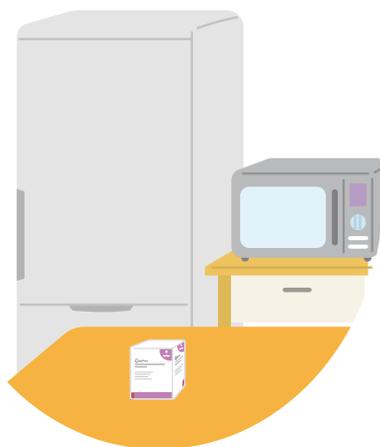
自己注射の前にはお手洗いを済ませるなど、  
余裕をもったスケジュールを立てましょう



※ これらの時間は目安です。  
注射にかかる時間は、お薬の量、使う針、注入のスピードなどによって前後します。  
特に、初めてと2回目のキュービトルの注入には、時間がかかります。

## 注射の準備をする前に

冷蔵庫でお薬（バイアル）を保存している場合は、注射を始めるおおよそ**90分前**に箱ごと取り出しておきます。バイアルは箱に入れたまま平らな場所に置き、室温に戻します。お薬が冷たいと、注入するときに痛みを感じやすくなります。また、お薬のねばり気が増し、注入がスムーズにいかなくなってしまいます。



### 直射日光・高温は避ける

- ちよくしやにつこう 直射日光があたる場所や、熱を発する物のそばにバイアルを置かないでください。
- 早く室温に戻すために、バイアルを水やお湯につけたり、電子レンジなどを使用して温めたりしないでください。お薬のゆうこうせい有効性やあんぜんせい安全性にえいきょう影響が出る可能性があります。



### 一度室温に戻したバイアルは冷蔵庫に戻さない

- お薬の有効性や安全性に影響が出る可能性があります。



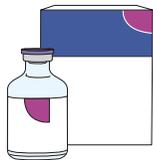
### お薬を激しく振らない

- はげ 激しく ふ 振ると、多量あわの泡ができて、注入量ふせいかくが不正確になります。

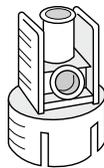


カウンターやテーブルの上を片付け、消毒します。  
お手洗いや手拭きも済ませておきましょう。

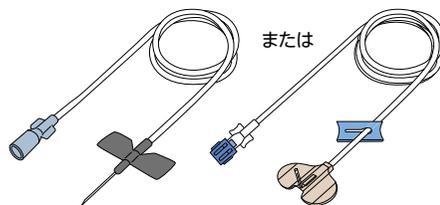
### 必要物品



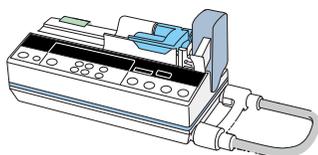
キュービトル  
バイアル



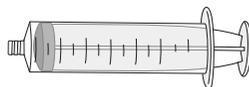
ツートック®  
さいえきしん  
(採液針)



よくじょうしん  
翼状針  
(ストレートの翼状針または直角針)



輸注ポンプ  
(クーデックシリンジポンプ)



シリンジ

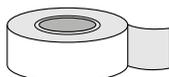


患者日誌  
(My キュービトル)

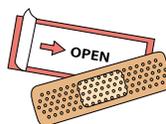
### ご自身でご用意いただく物



アルコール綿



サージカルテープ



ばんそうこう  
絆創膏

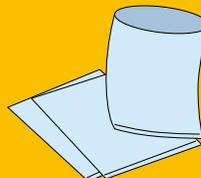


めっせん  
滅菌ガーゼ

はいき  
廃棄容器



廃棄ボックス



廃棄用  
ビニール袋

## バイアルの確認と準備

石けんで両手をよく洗う

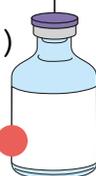


バイアルを開ける前に、必ず次のことを確認する 

- 「保護キャップ」にゆるみはありませんか？
- ビンが割れていたり、ひびが入ったりしていませんか？
- 液体の色は「無色、薄黄色または薄茶色」で、にごりはありませんか？
- 液体の中に、異物（小さい固形物）がありませんか？（泡は問題ありません）
- 「使用期限」は切れていませんか？（バイアルのラベルに記載があります）



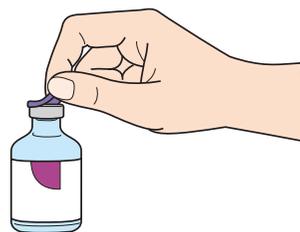
保護キャップ



- 異常や心配なことがあるときは、手順を中断し、主治医に連絡してください。
- バイアルの箱は捨てないでください。

## バイアルを準備する

- お薬が室温になっていることを確かめ、バイアルの保護キャップをはずします。
- バイアル上部のゴムの部分を、消毒用アルコール綿で丁寧に拭き、完全に乾くまでそのまま待ちます。



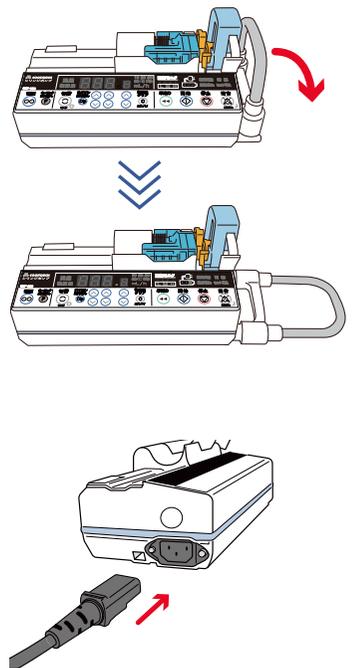
バイアルのゴム栓部分、採液針のシリンジとの接続部、フィルター部、内側の針は、手で直接触らないでください。



## 輸注ポンプの準備

### 輸注ポンプと電源コードを接続する

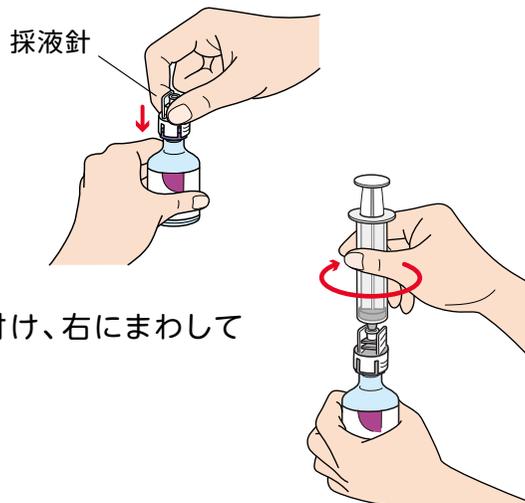
- 押し子ガードバーを開き、押し子ガードバーロックで押し子ガードバーを固定します。
- 電源コードを AC インレット (本体の左側面) に奥までしっかりと差しこみ、もう一方をコンセントに接続します。



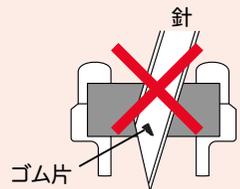
## シリンジの準備

### バイアルとシリンジをそれぞれ採液針に取り付ける

- 採液針をバイアルに垂直に刺しこんで取り付けます。
- 採液針にシリンジを取り付け、右にまわして固定します。



- 採液針のシリンジとの接続部、フィルター部、内側の針に、手やテーブルなどが触れないよう清潔に作業してください。
- 採液針はバイアルにまっすぐ刺しこみます。  
※ ななめに刺すと、針でけずり取られたゴム片がお薬の中に入ってしまうことがあります。
- 一度刺しこんだら抜かないでください。
- 採液針をバイアルに取り付けたら、できるだけすみやかにシリンジを取り付けてください。

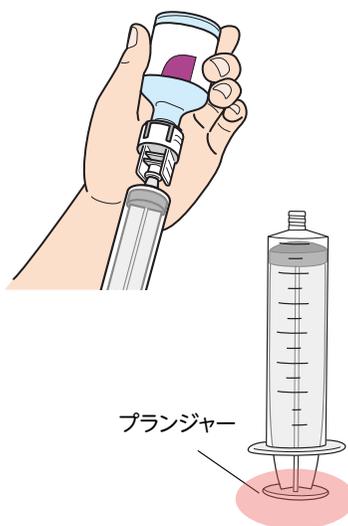


## お薬をシリンジに抜き取る

- バイアルをまっすぐ逆<sup>さか</sup>さにし、プランジャー（ピストンのように動く部分）をゆっくり引いて、お薬を抜き取ります。このとき、泡や空気がみられても問題ありません。

※ シリンジに抜き取るお薬は、実際の注入量にプライミングの分（チューブの量）を加えた量になります。詳しくは主治医の指示にしたがってください。

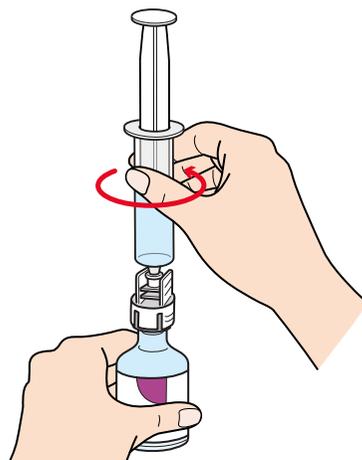
抜き取る量 = (                      ) mL



- バイアル2本分以上のお薬を1本のシリンジに入れる場合は、空になったバイアルと採液針を取りはずし、新しい採液針とバイアルを同じ手順で取り付け、同様にプランジャーをゆっくり引いてお薬を抜き取ります。このとき、採液針の内側の針に触れないよう注意してください。
- 新しいバイアルの確認、ゴム部分の消毒 (p.7) も必ず行ってください。

## 採液針からシリンジを取りはずす

- シリンジを上にし、左にまわして採液針からはずします。

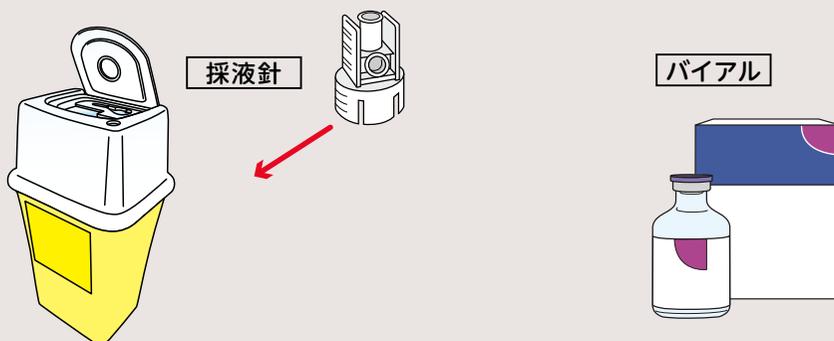


- シリンジの先がテーブルなどに触れないよう注意してください。
- お薬をう<sup>せ</sup>いで注射できる状態<sup>じょうたい</sup>になったシリンジは、小さなお<sup>とど</sup>さまの手の届かない安全で清潔な場所に置いておいてください。

使い終わった採液針はバイアルから取りはずし、廃棄ボックスに入れます。

バイアルは廃棄ボックスには入れず、そのまま元の箱に入れてください。

詳しくは「片付け(p.22)」をご覧ください。



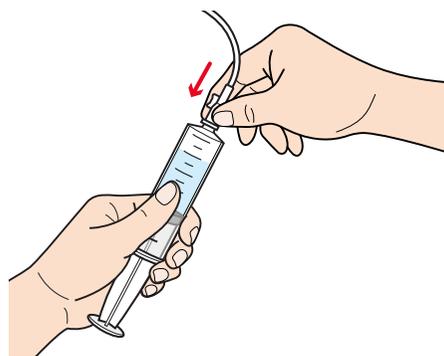
バイアルに残ったお薬は再使用せず、必ず廃棄してください。

## プライミング

プライミングとは、チューブから空気を抜き、針先までお薬を満たすことです。

### シリンジに翼状針を取り付ける

- 翼状針の接続部分のキャップをはずしてシリンジに取り付け、右にまわして固定します。



- シリンジと翼状針の接続部分に触らないよう注意してください。
- 針先がテーブルなどに触れないよう注意してください。

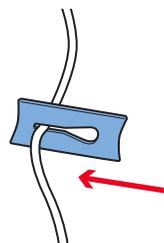
## シリンジの空気を抜き、チューブから針先までお薬を満たす

- チューブにクリップがついている場合は、クリップが開いていることを確認します。閉じているときは、クリップをスライドさせて開放してください。

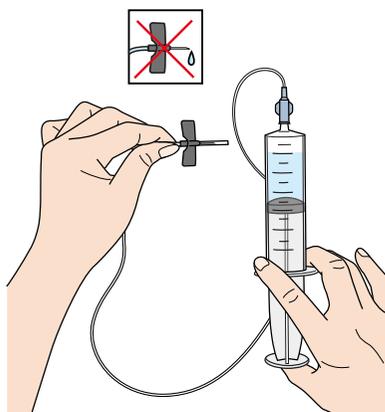
開いている状態



閉じている状態



- シリンジを上に向けて、チューブと針先を見ながらゆっくりプランジャーを押し、空気を抜いて針先までお薬を満たします。  
針先までお薬が届いたことが確認できたら完了です。針先からお薬がたれないよう注意してください。



※ イラストはストレートの翼状針です。

- シリンジ内のお薬が指示された注入量になっていることを確認します。

注入量 = (                      ) mL



- 皮膚<sup>ひふ</sup>に針を刺した状態でプライミングしないでください。
- お薬を針先からたらさないよう注意してください。  
※ 注射部位<sup>ちゅうしゃぶい</sup>が赤くなったり腫<sup>は</sup>れたりする原因になります。
- 注入開始前に、もう一度、チューブから空気が抜けていることを確認してください(小さな泡は、残っていても問題ありません)。

## 注射(針を刺す) ストレートの翼状針をお使いの方

### 消毒用アルコール綿で注射部位を消毒する

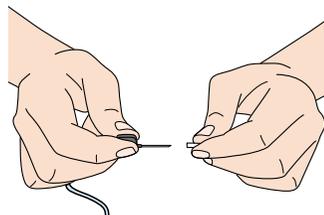
- 注射部位の中心から円を描くように外側に向かって消毒します。
- 消毒後は、完全に乾かしてください。乾くのを待つ間に、固定のためのサージカルテープを切って用意しておきます。



注射部位は毎回変更し、これまでの注射でトラブル（赤くなった、腫れたなど）があった部位を避けてください。

### 針キャップをはずす

- 翼状針を持ち、針についているキャップをはずします。



針で指を刺さないよう、十分に注意してください。

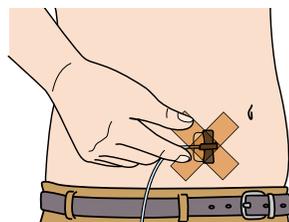
### 注射部位に針を刺す

- 皮膚をつまみ、皮膚に対して45°～90°の角度で翼状針をいっきに刺します。針の角度は主治医の指示にしたがってください。



### 針を固定する

- 翼状針の上から、サージカルテープを貼り、翼状針がずれないように固定します。



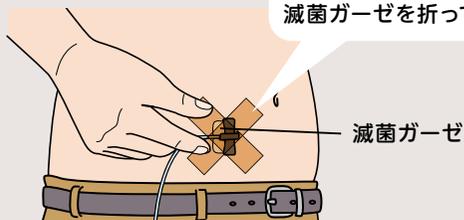
## ストレートの翼状針を使用する際の固定方法

### 45°の角度で刺す場合

テープと針を滅菌ガーゼにしっかり沿わせる



滅菌ガーゼを折って下に敷く



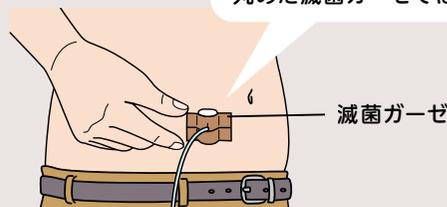
角度を保てるように、<sup>めっきん</sup>滅菌ガーゼを折って翼状針の下に敷きます。

### 90°の角度で刺す場合

テープと針を滅菌ガーゼにしっかり沿わせる



丸めた滅菌ガーゼではさむ



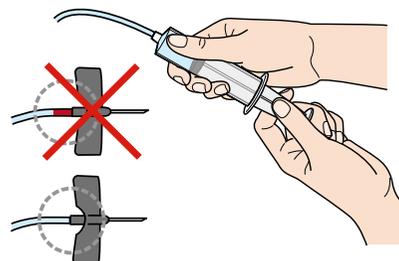
翼状針の持ち手部分の前後を、丸めた滅菌ガーゼではさみます。丸めてテープで止めた滅菌ガーゼをあらかじめ準備しておくとう便利です。



テープは、翼状針と滅菌ガーゼにしっかり沿わせるように止めましょう。

## 血液の逆流がないことを確認する

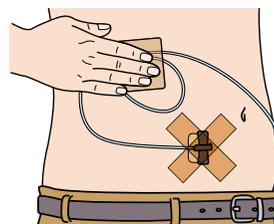
- シリンジのプランジャーをゆっくり引いて、チューブに血液が<sup>ぎやくりゅう</sup>逆流しないことを確認します。



チューブに血液が逆流した場合は、一旦針を抜き、<sup>いったん</sup>翼状針をシリンジからはずして廃棄し、新しい翼状針で、もう一度プライミング (p.10) からやり直してください。

## チューブを固定する

- チューブをたるませ、サージカルテープでからだのどこか1カ所に固定します。



- 注入の途中で針が抜けないうっかり固定してください。
- 複数の部位に分けての注射は、主治医の指導を受け、指示にしたがってください。

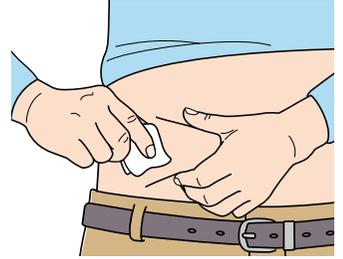
## 注射(針を刺す)



## 直角針をお使いの方

## 消毒用アルコール綿で注射部位を消毒する

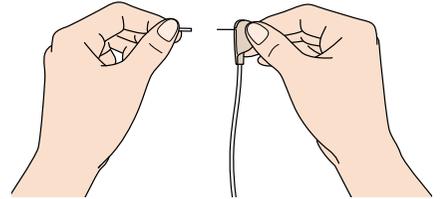
- 注射部位の中心から円を描くように外側に向かつて消毒します。  
えが  
しょうどく
- 消毒後は、完全に乾かしてください。乾くのを待つ間に、固定のためのサージカルテープを切って用意しておきます。  
かわ



注射部位は毎回変更し、これまでの注射でトラブル(赤くなった、腫れたなど)があった部位を避けてください。

## 針キャップをはずす

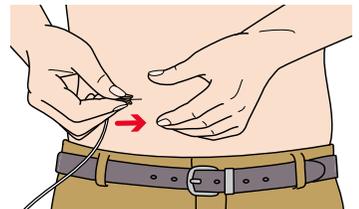
- 翼状針よくじょうしんを持ち、針についているキャップをはずします。



針で指を刺さないよう、十分に注意してください。

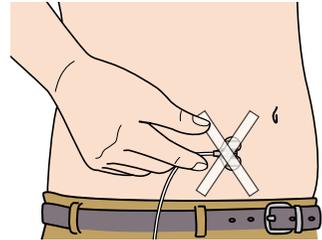
## 注射部位に針を刺す

- 皮膚をつまみ、皮膚に対して90°の角度で翼状針を根元までいっきに刺します。



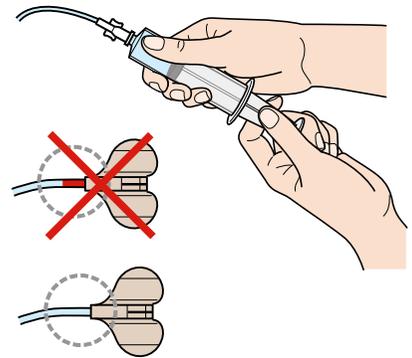
## 針を固定する

- 翼状針の上から、サージカルテープをななめにこうさ交差するように貼り、翼状針がずれないように固定します。



## 血液の逆流がないことを確認する

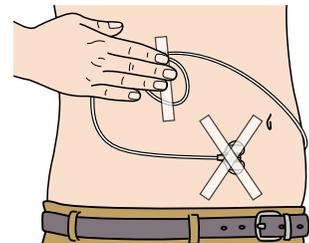
- シリンジのプランジャーをゆっくり引いて、チューブに血液がぎやくりゅう逆流しないことを確認します。



チューブに血液が逆流した場合は、一旦針を抜き、翼状針をシリンジからはずして廃棄し、新しい翼状針で、もう一度プライミング (p.10) からやり直してください。

## チューブを固定する

- チューブをたるませ、サージカルテープでからだのどこか1カ所に固定します。

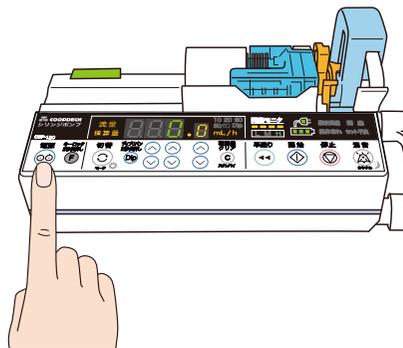


- 注入の途中で針が抜けないようしっかり固定してください。
- 複数の部位に分けての注射は、主治医の指導を受け、指示にしたがってください。

## 輸注ポンプのセッティング

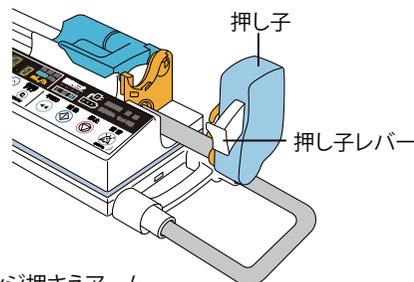
### シリンジを輸注ポンプにセットする

- はじめに、シリンジをセットしない状態で[電源]スイッチを押して電源を入れます。電源を入るとブザーが鳴り、すべてのランプが点滅して、自己診断機能が作動します。

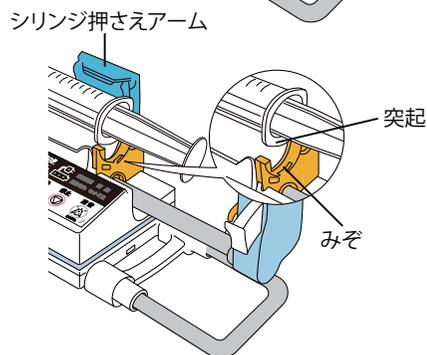


- シリンジをセットしてから電源を入れると、自己診断機能が正常に作動しません。
- [流量・積算量]表示部にエラーコード「E\_01」～「E\_18」が表示され警報音が鳴ったり、輸注ポンプに異常がみられた場合は、すぐに使用を中止して医療機関に連絡してください。

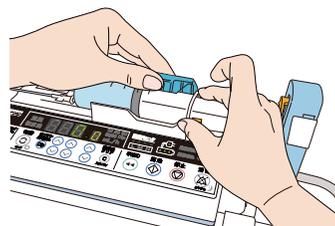
- 押し子レバーをつまみながら、押し子を外方向に移動させます。



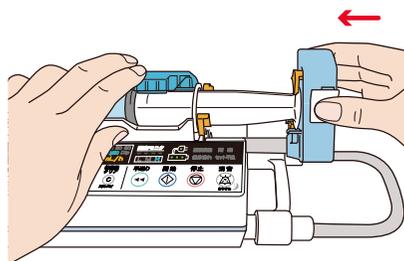
- シリンジ押さえアームを持ち上げ、外筒の突起をみぞに差しこみます。



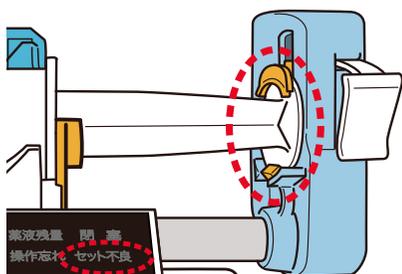
- シリンジ押さえアームを静かに下げて、シリンジを固定します。シリンジがポンプに認識されると、[シリンジサイズ]ランプが点灯します。



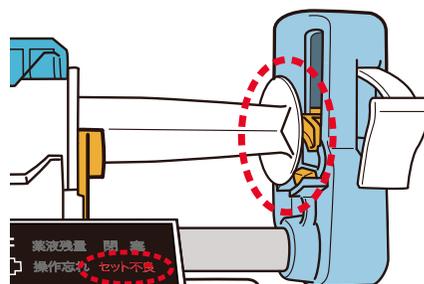
- 押し子レバーをつまみながら、内筒の突起に軽くあたる位置まで押し子を左側に移動します。



- 押し子レバーから指を離し、シリンジ押さえバーで内筒の突起を確実に固定します。シリンジが正しくセットされると、[セット不良] 警報ランプが消えます。



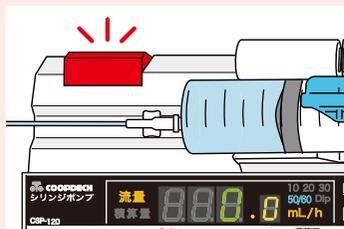
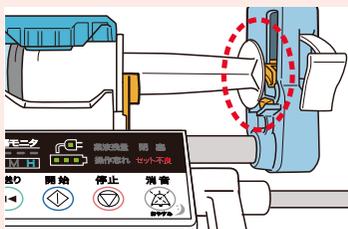
正しいセット



セット不良

シリンジが正しくセットされないと、パイロットランプが赤色に点滅し[セット不良] 警報ランプが点滅して警報音が鳴ります。警報音が鳴ったら、[消音] スイッチを押して警報音を止めてください。

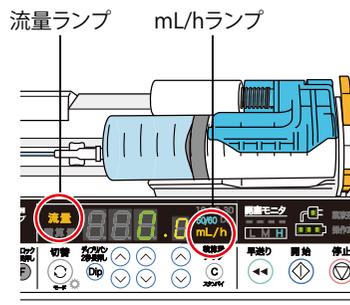
[消音] スイッチを押すと、[セット不良] 警報ランプが点滅から点灯に変わりますので、シリンジをポンプから一旦はずし、電源を入れた後からやり直してください。



## お薬の注入

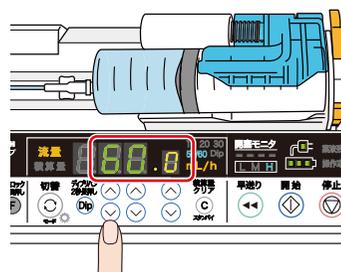
## 注入速度を設定し、注入を開始する

- [流量]ランプと[mL/h]ランプが点灯し、[流量・積算量]表示部が流量を表示していることを確認します。

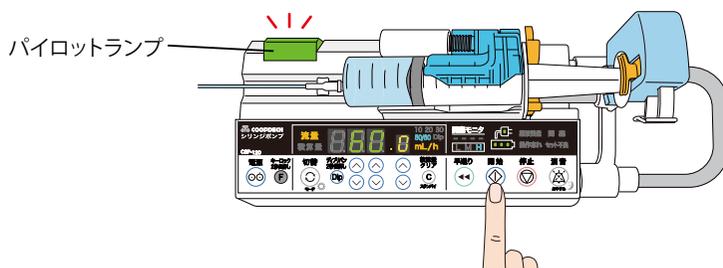


[積算量]ランプが点灯している場合は、[切替]スイッチを1回押して、「流量」ランプが点灯する状態に切り替えてください。

- 主治医から指示された1時間あたりの注入量（注入速度：mL/h）になるまで矢印のスイッチを押します。



- 流量設定が行われていること、シリンジが確実にセットされていることを確認し [開始] を押してお薬の注入を開始します。注入が始まると、パイロットランプが緑色に点滅します。



- お薬を注入する前に、液体の色が「無色、薄黄色または薄茶色」で、にごりや異物いぶつ(小さい固形物)がないことを再度確認してください。(泡は問題ありません)
- お薬をシリンジに入れたら、できるだけすみやかに使用してください。
- お薬は注射部位1カ所につき、初回の注射では20mL以下、2回目以降の注射では最大60mLまで注入できます。
- 注入中に気分が悪い、のどに違和感いわかんがある、息苦しい、胸がドキドキする、からだがかゆいなどの症状が現れた際は、すぐに注入を中止し、主治医に報告してください。
- 注入中は、パイロットランプが緑色に点滅していることを確認してください。
- 注入中に流量の変更はできません。流量を変更する場合は、注入を一旦停止してから行ってください。

- 2回以上に分けて注射する場合は、新しい翼状針で、「バイアルの確認と準備(p.7)」からもう一度行ってください。一度使用した針やシリンジは絶対に再使用しないでください。
- 2回目以降は、すでに注射したところから5cm以上離して注射してください。

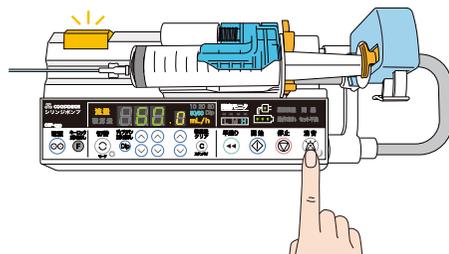
注入中は  
リラックスして  
お過ごしください



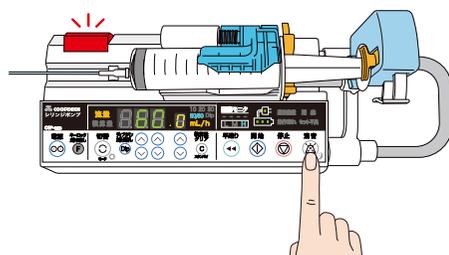
## 抜針(針を抜く)

### 輸注ポンプを止める

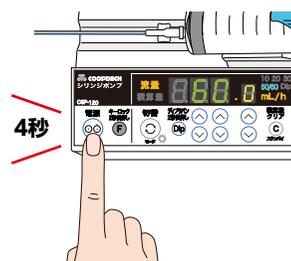
- お薬が少なくなると、パイロットランプが橙色に点灯し、[薬液残量] 警報ランプが点滅して警報音が鳴ります。[消音] スイッチを押して警報音を止め、注入を続けます。



- お薬が完全になくなると、輸注ポンプが止まり、パイロットランプが赤色に点滅し、[薬液残量] 警報ランプが点滅して警報音が鳴ります。[消音] スイッチを押して警報音を止め、[薬液残量] 警報ランプが赤色の点滅から赤色の点灯に変わるのを確認します。

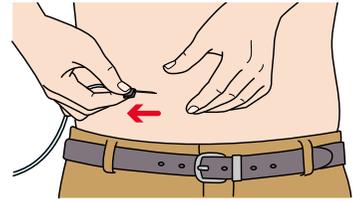


- [電源] スイッチを約4秒長押しし、電源を切ります。



## 針を抜く

- 輸注ポンプを止め、10秒ほど待ってからテープをはがし、翼状針をゆっくり抜きます。

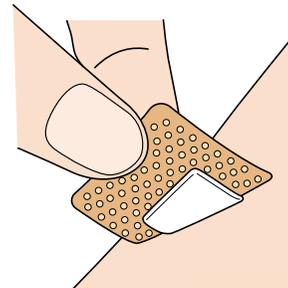


※ イラストはストレートの翼状針です。

## 注射部位を絆創膏で保護する

- 注射部位から出血がないことを確かめた後、  
ばんそうこう ばんそうこう ほご 絆創膏で保護します。

※ 軽い出血があるときは、出血が止まるまで滅菌ガーゼなどでやさしく押さえてください。

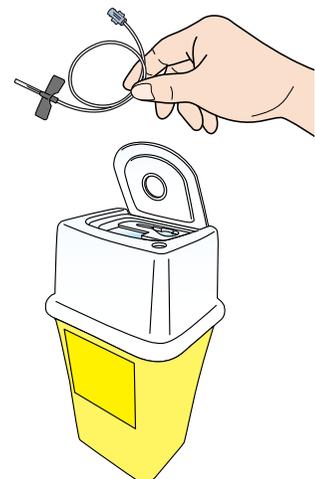


注射後、注射部位をもまないでください。

## 針の廃棄

### 針を廃棄する

- 翼状針をシリンジからゆっくりはずし、キャップをつけずに、そのまま廃棄ボックスに入れます。



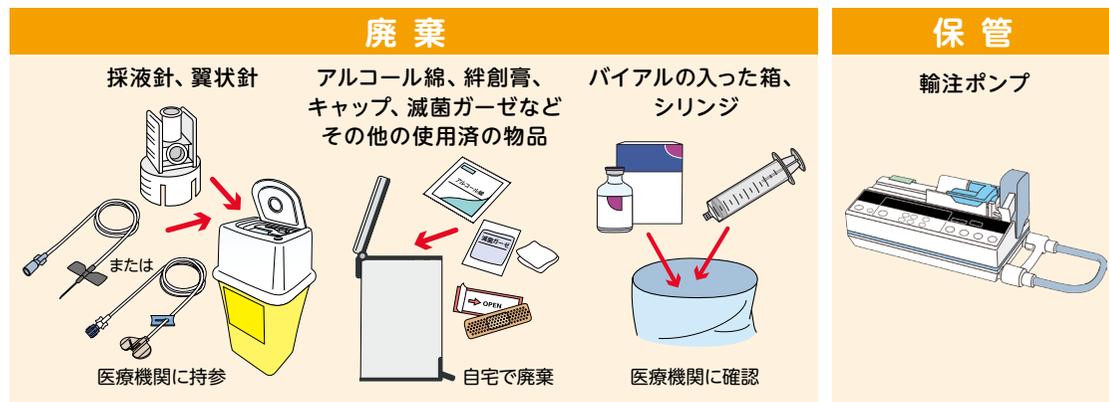
※ イラストはストレートの翼状針です。



- キャップをつけようとする、指に針を刺す可能性があり危険です。必ずそのまま廃棄ボックスに入れてください。
- 廃棄ボックスの上蓋は、一度閉めたらロックがかかり、再度開けることはできません。

## 片付け

- 使用済の採液針と翼状針は、廃棄ボックスに入れます。中が8割くらいたまってきたら蓋を閉め、医療機関に持って行ってください。
- アルコール綿、絆創膏、キャップ、滅菌ガーゼなど、その他の使用済の物品は自宅で廃棄してください。
- 押し子レバーをつまんで押し子を外方向に移動させ、シリンジ押さえアームを持ち上げて輸注ポンプからシリンジをはずします。輸注ポンプはコンセントを抜き、きれいに拭いて自宅で保管します。
- 使用済バイアルのに入った箱は、製造番号のシールをはがし、箱ごと使用済のシリンジと一緒に廃棄用ビニール袋に入れます。廃棄用ビニール袋しよりの処理に関しては医療機関にご確認ください。
- はがした製造番号のシールは、患者日誌に貼ってください。



キュービトル® 20%皮下注  
製造番号:XXXXXXXXXX



- !**
- 翼状針とシリンジは絶対に再利用しないでください。
  - 蓋を閉めた廃棄ボックスは医療機関に持って行き、新しいものと交換してください。
  - 廃棄用ビニール袋の処理に関しては、医療機関にご確認ください。医療機関によって廃棄方法が異なる場合があります。

## 記録

- バイアルの箱についていた製造番号のシールを患者日誌の所定の場所に貼り、患者日誌に注入の記録をつけます。



### 患者日誌について —記録ページの簡単なお紹介—

バイアルの箱から製造番号シールをはがしてここに貼ります。

注射部位の痛みに関して、ご自身の症状に1番近い番号を選びます。注射中・注射後それぞれ記録します。

注射部位の痛み以外の症状を書きます。注射中・注射後それぞれ記録します。

日にち 年 月 日	製造番号シール
体重 kg	注射部位 
前回受診時の血清 IgG 値 mg/dL	総注入量 mL
注入箇所 カ所	注入速度 mL/時間
実際にかった時間 時間 分	
<注射中>注射部位の痛み 0 2 4 6 8 10 痛くない 痛みの少ない 痛み 痛い かなり痛い 非常に痛い 痛くない 痛みの少ない 痛み 痛い かなり痛い 非常に痛い	<注射後>注射部位の痛み 0 2 4 6 8 10 痛くない 痛みの少ない 痛み 痛い かなり痛い 非常に痛い 痛くない 痛みの少ない 痛み 痛い かなり痛い 非常に痛い
<注射中>注射部位の痛み以外の症状	<注射後>注射部位の痛み以外の症状
足りなくなりそうな物品など	
メモ (連絡事項)	

詳しくは「My キュービトル」をご覧ください。

# Webサイトのご紹介



## 原発性免疫不全症(PID)の患者さん向けお役立ちサイト

- 武田薬品工業がお届けする疾患啓発サイト



くりかえす気管支炎・肺炎・中耳炎ナビ

<https://www.takeda.co.jp/patients/pidnavi/index.html>

- そのほかの各種お役立ちサイト

難病情報センター(原発性免疫不全症候群について)

<https://www.nanbyou.or.jp/entry/95>

難病情報センター(医療費助成制度について)

<https://www.nanbyou.or.jp/entry/5460>

小児慢性特定疾病情報センター (※18歳未満の方が対象)

<https://www.shouman.jp/>



## 続発性免疫不全症(SID)の患者さん向けお役立ちサイト

厚生労働省(高額療養費制度を利用される皆さまへ)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/iryohoken/juuyou/kougakuiroyou/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryohoken/juuyou/kougakuiroyou/index.html)

## よくある質問 Q & A

### Q1 お薬のバイアルを凍らせてしまった

A 凍らせるとお薬の性質が変わってしまう可能性があるため、そのバイアルは使わないでください。次回の通院時に持参し、凍らせてしまったことを伝えてください。代替りのバイアルがないときは、主治医に連絡してください。

### Q2 お薬のバイアルを振ったり落としたりして、泡ができてしまった

A 落とした場合は、ビンに割れやひびがないか、よく確かめてください。割れやひびがあれば「片付け(p.22)」に従って廃棄してください。代替りのバイアルがないときは、主治医に連絡してください。

割れやひびがない場合は問題ありません。細かい泡は、時間がたつと、だんだん消えていきます。代替りのバイアルがあればそちらを使ってもかまいません。

### Q3 採液針をバイアルに刺そうとして、途中で針が折れてしまった

A 予備の採液針とバイアルを使用して、もう一度「バイアルの確認と準備(p.7)」からやり直してください。最初のバイアルと針は、「片付け(p.22)」に書いてある手順に従って廃棄してください。また、そのときの状況をできるだけ詳しく患者日誌に記録してください。予備の採液針や代替りのバイアルがないときは、主治医に連絡してください。

### Q4 翼状針を刺そうとして、途中で針が曲がってしまった、または折れてしまった

A 予備の翼状針を使用して、もう一度、「プライミング(p.10)」からやり直してください。針が曲がると輸注ポンプがうまく作動しないことがあります。また、そのときの状況をできるだけ詳しく患者日誌に記録してください。

## よくある質問 Q & A

### Q5 チューブの中に泡が入っている

A 微細な泡は問題ありません。注入前のプライミングは、手順どおり行ってください。

### Q6 注入途中で針がはずれて、お薬が漏れていることに気づいた

A はずれてすぐに気がついたときは、一旦輸注ポンプを止め、翼状針を取り替えて「プライミング(p.10)」からやり直してください。同じ針を使って、もう一度刺さないでください。

お薬がたくさん漏れているときは、注入をそこで中止し、主治医に連絡してください。そのときの状況(中止した理由や注入された量など)をできるだけ詳しく患者日誌に記録してください。

### Q7 注入中に、痛みがだんだん激しくなった

A 注入を中止し、そのときの状況(中止した理由や注入された量など)をできるだけ詳しく患者日誌に記録してください。

すみやかに主治医に連絡し、痛みに対する治療を受けて、次の注入について相談してください。

### Q8 注入後に痛みがある、皮膚に異常がある、からだに異変がある

A 注入開始後、注射部位に腫れ、紅斑、痛み、かゆみ、硬結、刺激感、温感などといった症状が現れたら、患者日誌に記録してください。

症状がひどい場合や、体調が悪い、熱っぽいと感じた場合には、すぐに主治医に連絡してください。

**Q9** 必要なお薬やシリンジがないことに気づいた  
注入予定日に注射できない

**A** 注入予定日に注射できなかった場合は、主治医に連絡してください。

**Q10** 注射1回分の量が、注射部位1ヵ所あたりに  
指示された量をこえるとき

**A** シリンジを2本に分けて、2回注射してください。

たとえば、80mLのお薬を注射するときは、シリンジを40mLずつ2本に分けて準備します。1本目の注射が終わったら、針を抜いて絆創膏で保護した後、5cm以上離れた場所に再度注射します。このとき、シリンジにお薬を準備してからできるだけ早めに注射してください。

キュービトル 患者さん専用Webサイト

# キュービトル.jp

キュービトルの詳しい情報は、患者さん専用Webサイトでもご紹介しています。



<https://www.cuvitru.jp/patients/>



医療機関名



武田薬品工業株式会社